

外国為替予想レポート(週刊)
Techni Hedge Forex : 02 Mar. 2009 (Mon)

先月はドル円とユーロ円が記録的な大幅の下落。
 短期的には円安短期底分岐点に到達。今週は調整かもしれない。

今週の為替市場予測、ハイライト：

ドル円・長期予想：ドル長期買いシグナル点灯した。	2
ドル円・中期予想：中期強気中。	2
ドル円・短期予想：短期強気転換。	3
ユーロ円・長期予想：長期強気に転換した。	4
ユーロ円・中期予想：中期強気転換。	5
ユーロ円・短期予想：短期弱気転換。	5
ユーロドル・長期予想：長期強気中。	6
ユーロドル・中期予想：中期弱気中。	6
ユーロドル・短期予想：短期強気中。	7
ドル・インデックス：中期強気中。	8
ポンド円：長期強気転換、中期強気転換。	9
ポンド米ドル：長期弱気中、中期弱気中。	10
ユーロスイス予想：中期弱気中。	11
ユーロポンド：長期弱気転換、中期弱気中。	11
豪ドル円：長期強気転換、中期強気中。	12
豪ドル/米ドル予想：長期強気転換、中期強気中。	13
カナダ円：長期強気転換、中期強気転換。	14
米ドルカナダドル：長期売りシグナル点灯して長期弱気転換、中期強気中。	15
ドルスイス：長期弱気中、中期強気中。	16
スイス円予想：長期強気転換・中期強気転換。	16

ドル円： 97.60 (93.30) 先週末 NY 為替市場終値

[為替市場焦点] (本レポでは昨日とは先週金曜日、本日とは週明け月曜日をさします)

昨日の海外市場ではクロス円が短期円強気(クロス弱気)に転換したものが多く、全面円高、ドル高で終了した。

ドル円は過去10年間で二番目の週間上昇率4.61%を記録した。

ドル・インデックスはザラバで昨年来の最高値を数ピップながら更新した。

全世界株式市場と最も正確に連動しているのはドル・インデックスで、株式も昨年来最安値を更新したか、更新ギリギリで終了したものが殆どだった。

ポンド円、カナダ円に短期売りシグナル点灯。

豪ドル米ドルに短期売りシグナル点灯。

中期観測では、記録的規模の大幅円急落が発生したほかは、特に新展開と言える変動は無かった。

2月の長期月足観測には月初めから反転のシグナルが点灯したものが多かった。
次にそれらを列挙する。アルファベット順。

豪ドル円、カナダ円、スイス円、ユーロ円、ポンド円に長期買いシグナル点灯。

豪ドル米ドル、ドル円に長期買いシグナル点灯。
ドルカナダに長期売りシグナル点灯。

ユーロスイスに長期買いシグナル点灯。
ユーロポンドに長期売りシグナル点灯。

(なお、ブレイクアウトはストップに対する抜けを告知しており、予想レンジに対するものでは ありません。ご注意ください。本レポートでは逆張りの売買シグナルと、順張りの売買ストップでポジション認識を管理しておりますが、チャートには逆張りの売買シグナルのみが表示されています)

ドル円・長期予想：ドル長期買いシグナル点灯した。

(下図ドル円の長期月足売買シグナル：)



2月は買いシグナルが点灯。買いブレイクアウト94.89にて発生。
2008年9月104.52より長期弱気中だったが、2009年2月に91.89にて強気転換。

2月足には、月初めより91.89にて買いシグナルが点灯し、また買いストップ94.89にも到達して、強気転換を確認。

7ヶ月ぶりに前月高値も更新し、多くの点で文句なしの長期強気転換を果たした。
12.63円の長期ショート益を計上した。

*本文アンダーラインおよびチャート上の噴出しコメントは、あとから付けたものです。(以下同様)

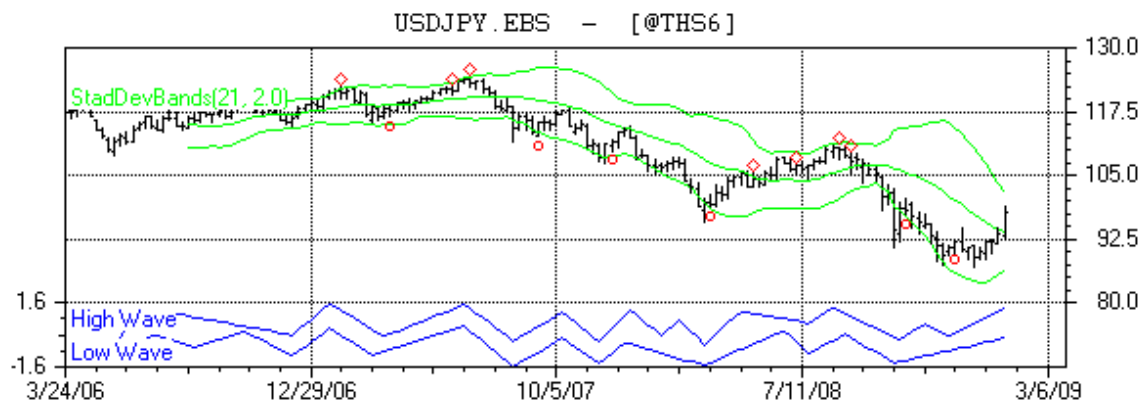
先月の上昇率8.50%は、1995年8月に発生した10.20%に続き2番目のもので、過去20年以上の歴史でも2番目である。記録的な上昇率だった。
1995年8月の急騰といえば、史上最大の超円高時代の95年4月79.75円に終止符を打った月だった。

3月の売りストップは88.67。(買いストップは106.53)

標準予想レンジは 93.21 ~ 99.68。
陽線予想レンジは 96.50 ~ 102.97。
陰線予想レンジは 92.22 ~ 98.69。

ドル円・中期予想：中期強気中。

(下図ドル円中期週足売買シグナル：)



先週はシグナル点灯なし。大幅の買いブレイクアウト 95.27 にて発生し強気を再確認。
2月20日週 94.14 より強気中。

先週のドル円は記録的な上昇率で急騰した。
前週比上昇率は 4.61% でこれは過去 10 年間で二番目の大幅上昇だった。

これ程の強烈な買戻しは、長期的に下げ止まったという市場認識なしには発生しないだろう。
ドル円は長期月足の買いシグナルが先月初頭から点灯しており、先週の急騰でこのシグナルの有効性が高まった。

この先、最も楽観的な観測では 4 月の第 1 週頃に 103 円から 104 円に到達する見通しである。
過去の経験則では、既に上げ相場の局面でこれほどの上昇があると、クライマックスを形成してその後高値には伸びなくなった例も多数あり、今週以降は不安定な乱高下になるかもしれない。

最も悲観的な観測では、近いうちに 95 円近辺まで押すというシナリオ。
この場合は中期的に良い買場となる。

今週の売りストップは 92.35。(買いストップは 102.85)

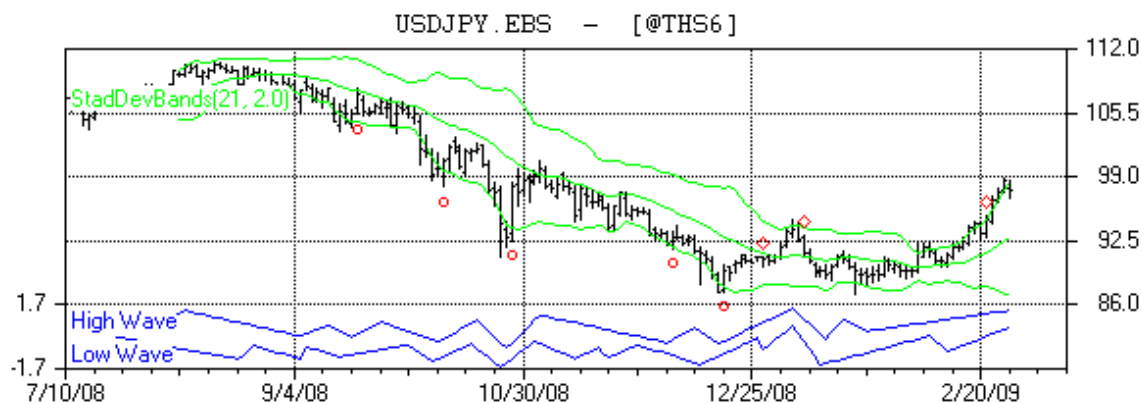
標準予想レンジは 94.85 ~ 99.45。

陽線予想レンジは 96.65 ~ 101.24。

陰線予想レンジは 93.95 ~ 98.54。

ドル円・短期予想：短期強気転換。

(下図ドル円短期日足売買シグナル：)



2月20日 93.25 より弱気注だったが、2月24日 96.54 にて強気転換。

昨日は下落したが、売りストップには到達せず強気のまま終了。
短期周期の観測ではピーク予想圏を形成中である。

通常ならば週明け月曜日から安値の模索が始まり、弱気転換するのが標準的な周期シナリオである。月曜日には、市況次第で短期売りシグナルが点灯する可能性が五分。

しかし、ドル円は記録的な週上昇率を達成したことから分かるように、買い上げの規模が並外れていた為、今週下げ渋るという可能性もある。
先週の上昇率は4.61%で、過去10年間で二番目を記録した。

2月月足には長期買いシグナルも点灯しており、中長期の下げ止まり感が広がった為の記録的な上昇達成だったといえる。

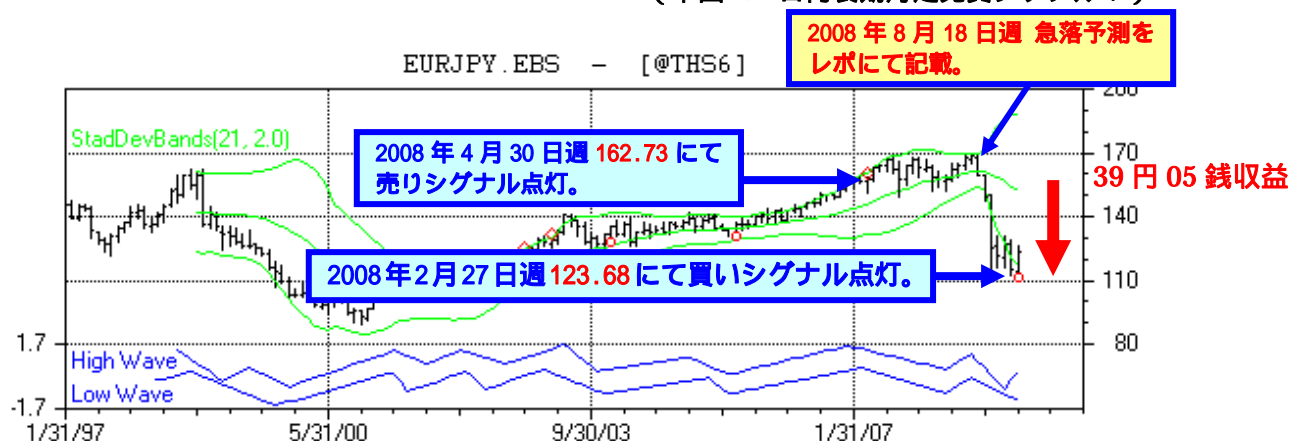
3月は季節性の円レパトリが噂されているものの、金融機関の巨額損失が世界的に止まらず、欧米でもドルの四半期末レパトリが予想以上に発生する可能性も高く、ドル円は昨年度のような円高にはならないだろう。

ユーロ円: 123.68 (119.54) 週末 NY 為替市場終値

[概観] 長期買いシグナル点灯して長期強気に転換。

ユーロ円・長期予想：長期強気に転換した。

(下図ユーロ円長期月足売買シグナル：)



2月足には買いシグナルが点灯した。ブレイクアウトなし。
2008年8月162.73より長期弱気中だったが、2009年2月123.68円にて強気転換。

ユーロ円2月足には長期買いシグナルが点灯。長期強気転換した。
実に39円05銭と言う、記録的な長期ショート益を計上した。

他のクロス円通貨では月初めから先駆けクロス円を中心に、豪ドル円、ポンド円、ドル円が長期買いシグナルを点灯し、先々週にはカナダ円にも長期買いシグナルが点灯していたので、相関推測からもユーロ円が長期強気に転換しているのは明らかだった。

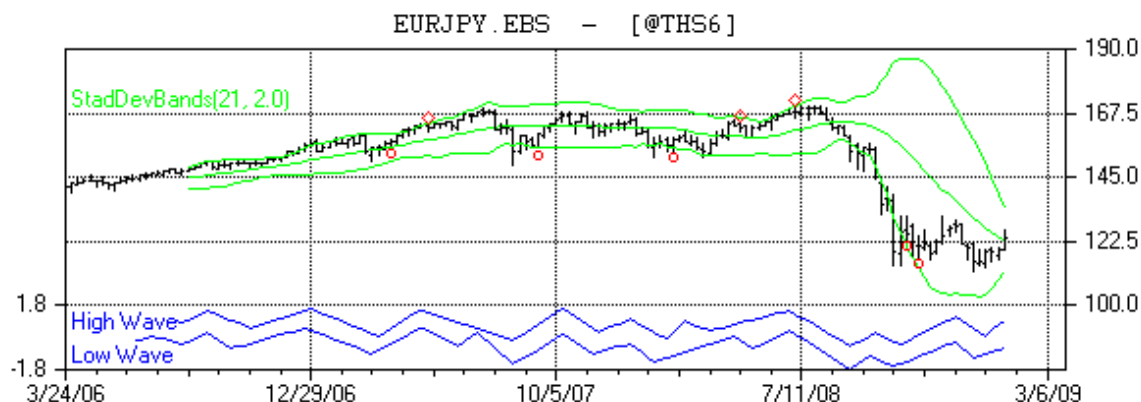
先月の上昇率であるが、実はドル円と同じく仮想データを含む過去20年の歴史を振り返っても、2番目の上昇率だった。
ドル円ほど劇的なチャートとならなかったのは、ユーロ円直近のボラティリティーが大きすぎて目立たなかったのが原因である。

3月の売りストップは112.41。(買いストップは134.95)

標準予想レンジは 116.54 ~ 126.91。
陽線予想レンジは 121.75 ~ 132.11。
陰線予想レンジは 115.24 ~ 125.60。

ユーロ円・中期予想：中期強気転換。

(下図ユーロ円中期週足売買シグナル：)



先週はシグナル点灯なし。買いブレイクアウト 123.49 にて発生。

1月9日週 124.70 より弱気中だったが、2月27日週 123.49 にて強気転換。

今週のユーロ円は、4週連続の120円抵抗圏を突破した直後から急騰。

目標値124円を突破して、125円台に到達した後に終了した。

先週の週間上昇率3.46%も歴史的な比較では非常な高水準だった。

先月の月間上昇率も過去20年間で2番目だったことから、エポックメイキングな時間的節目を形成中である。

過去のケースでは長大陽線が重要な歴史的節目に出現する事が多く、その最も顕著な例は2000年12月1日週に出現した4.86%の急騰で、この週を境にしてユーロ円は2000年10月の大底を抜け出したわけである。

こうした前後関係から推測すると5週間以内に（=4月半ばまでに）130円に到達する可能性はかなり高いといえる。

今週の売りストップは116.85。（買いストップは130.51）

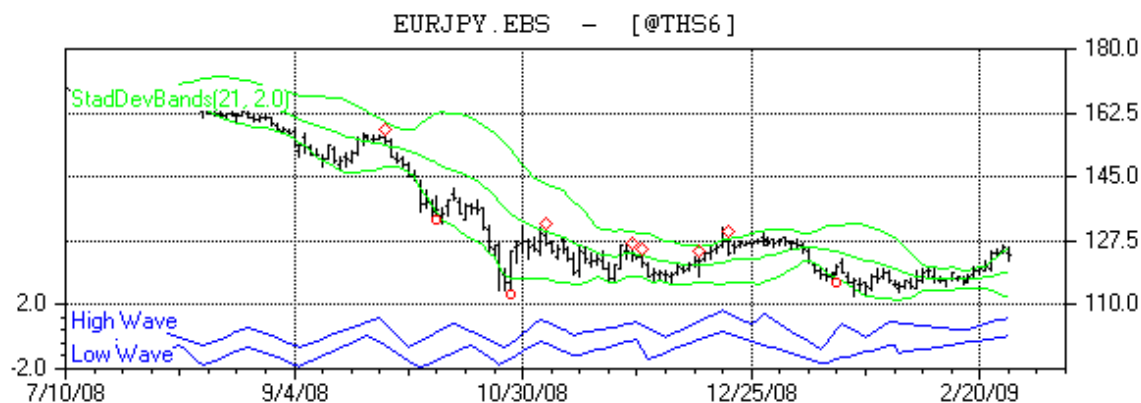
標準予想レンジは 119.11 ~ 127.71。

陽線予想レンジは 122.04 ~ 130.64。

陰線予想レンジは 116.71 ~ 125.31。

ユーロ円・短期予想：短期弱気転換。

(下図ユーロ円短期日足売買シグナル：)



2月5日117.63より強気中だったが、昨27日122.62にて弱気転換。

ユーロ円は8営業日ぶりに反落し、短期弱気転換した。

調整安が最大で120円程度までであるとの見通しであるが、長期買いシグナル点灯や、記録的な上昇率がドル円やクロス円全体で記録されていることを背景に、思ったほどは下げないとの見通しである。

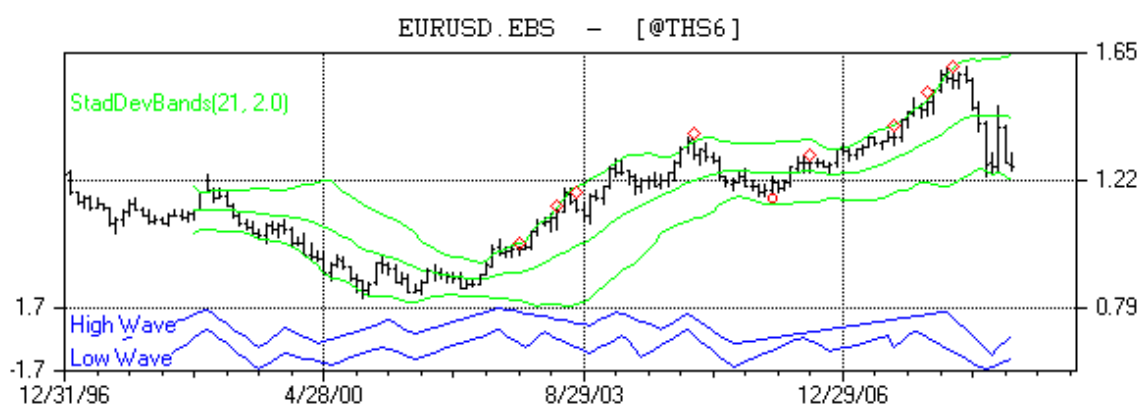
調整終了後は、再び上昇して高値目標130円に到達するとの見込み。

ユーロドル: 1.2669 (1.2825) 先週末 NY 為替市場終値

[概観]: 2月は予想通り下げ止まり、極小レンジにて終了。

ユーロドル・長期予想: 長期強気中。

(下図ユーロドル長期月足売買シグナル:)



2月はシグナル点灯なし。ブレイクアウトなし。

2008年12月1.3953より強気中。

12月足と1月足に異常な極大レンジが出現した。

ここまで激しく乱高下すると、直ちにトレンドを形成したり、長期方向性を見出すのは難しく、身動き取れなくなって萎縮するか、ないしは上方に大乱高下するしかない。

その予想通り新規安値の更新は無く2月足は萎縮、リーマンショックが始まった昨年8月足以前のレンジ水準に戻った。

ここからは正常化した2月レンジからの飛び出しを最初の手掛かりにすれば良いだろう。

3月の売りストップは1.2222。(買いストップは1.3116)

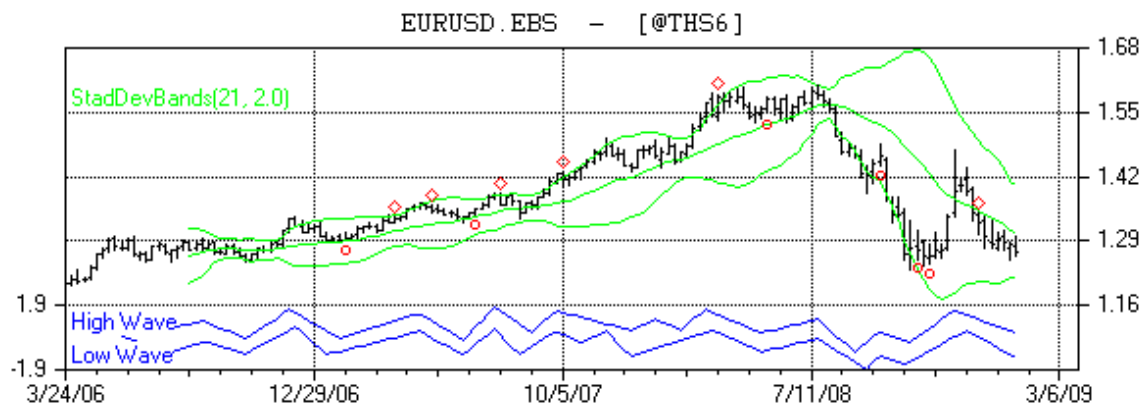
標準予想レンジは1.2273~1.3011。

陽線予想レンジは1.2516~1.3255。

陰線予想レンジは1.2083~1.2822。

ユーロドル・中期予想: 中期弱気中。

(下図ユーロドル中期週足売買シグナル:)



先週はシグナル点灯なし。ブレイクアウト無し。
1月9日週1.3455より弱気中。

先週のユーロドル週足は、先々週の逆で「高値に行って来い」の後、逆転下落して実体は小さい陰線にて終了した。

これをどう解釈するのだが、前週に引き続き弱気から抜け出たわけではないが、下げ止まり感はいっそう強まったという事だろう。

2週間で上下両方向のブレイクが失敗したことから、今週は小幅の乱高下になる可能性が高い。

今週の買いストップは1.3008。(売りストップは1.2330)

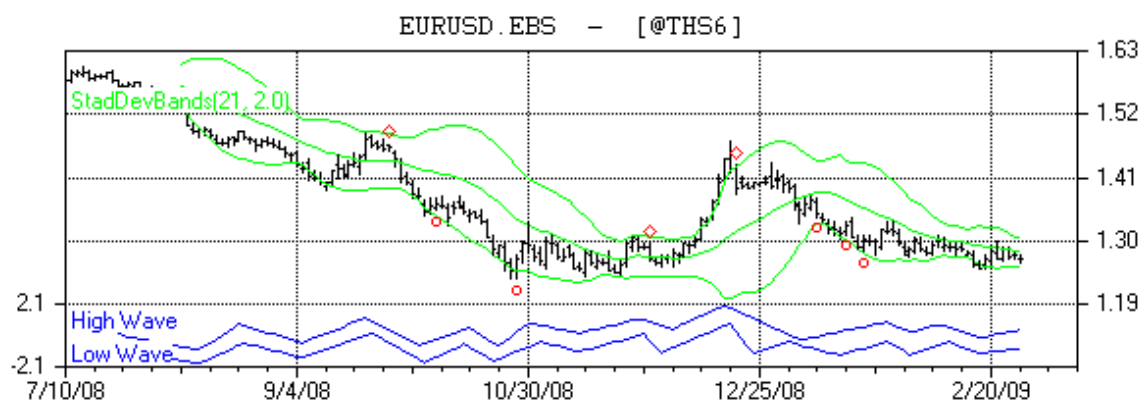
標準予想レンジは1.2415 ~ 1.2976。

陽線予想レンジは1.2554 ~ 1.3115。

陰線予想レンジは1.2223 ~ 1.2784。

ユーロドル・短期予想：短期強気中。

(下図ユーロドル短期日足売買シグナル：)



2月20日1.2825より強気中。

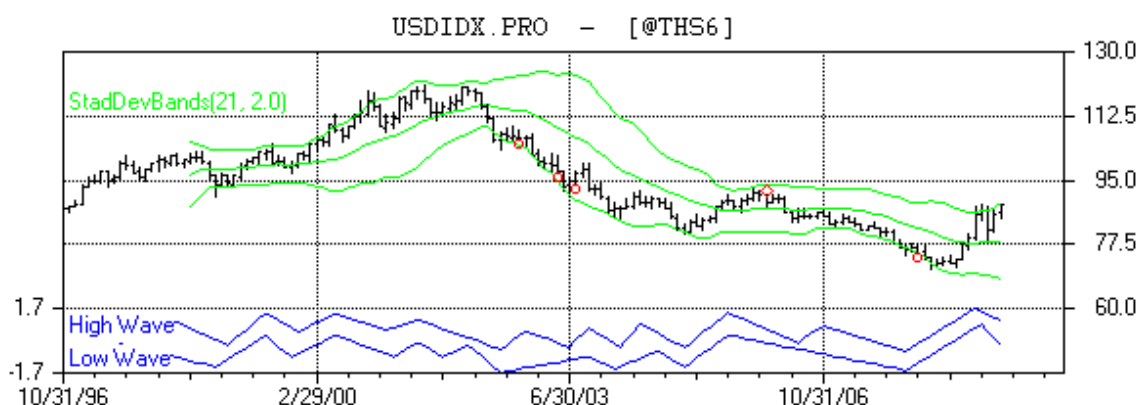
昨日は下落したものの、海外時間では比較的狭いレンジ内で乱高下となり、売りストップにも届かず、方向性無く終了した。

週半ばまでは大型反騰の可能性を見ていたが、一旦失敗したとの認識である。
しかし安値方向にも下げ渋るところがあり、足元は難しい先細り乱高下だろう。

ドル・インデックス: **88.166** (86.592) 先週末 NY 為替市場終値

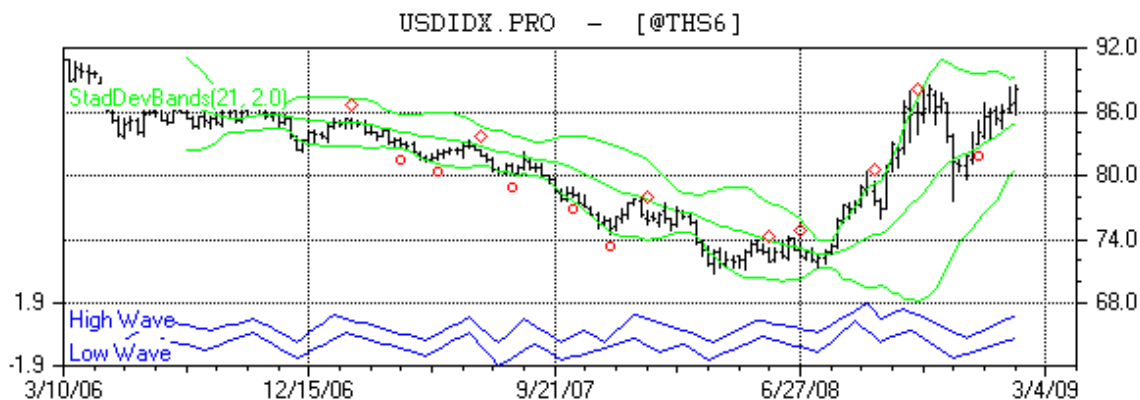
ドル・インデックス: 中期強気中。

(下図ドル・インデックス月足売買シグナル)

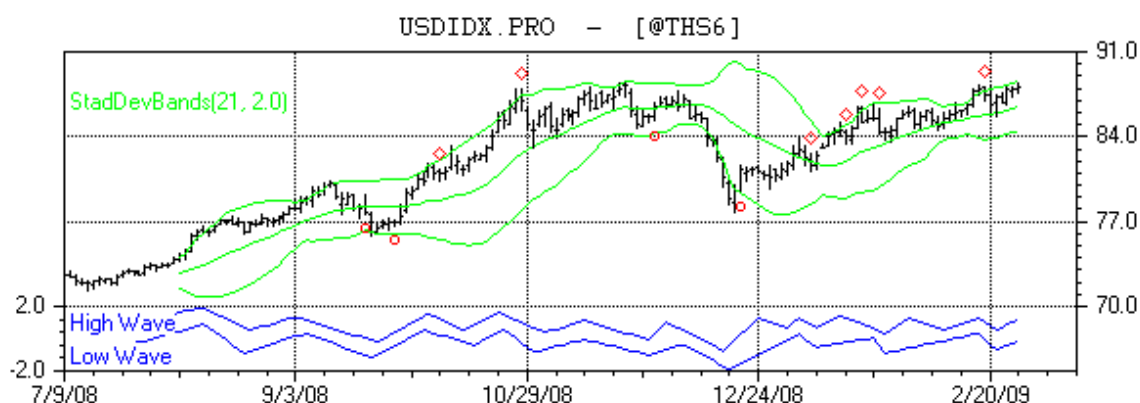


ドル・インデックスは先週重要分岐点に到達した。昨年度高値88.463である。これは世界の主要株式が、昨年の安値に到達したのと同じ逆ミラー・イメージである。株式市場では二重底のパターン形成が話題になっているが、筆者の経験則では、今回のような株式市場とドル・インデックスの市況では、ここでピタリと二重底ないしは二重天井を付けるのは難しく、株式は一時安値を更新、ドル・インデックスも高値を更新するのではないと思う。これは、先月点灯した幾つかの先行通貨の長期ドル売りシグナルとは矛盾しているようだが、こうした先行通貨はドル・インデックスよりも先走る傾向が高いという事で説明できるだろう。とは言え、恐らく高値を更新した直後からは、その先に伸びないという事も判明するのではないかと推測。非常に大まかにはドルは天井圏に接近中なのではないかと推測。

(下図ドル・インデックス週足売買シグナル)



(下図ドル・インデックス日足売買シグナル)



ポンド円: **139.63 (134.69)** 先週末 NY 為替市場終値

ポンド円: 長期強気転換、中期強気転換。

(下図ポンド円月足売買シグナル:)

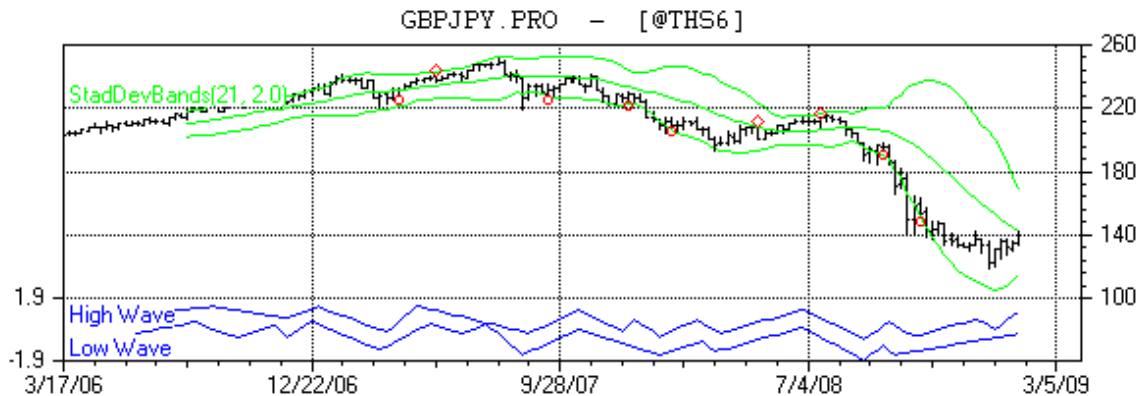


ポンド円長期月足は2008年8月205.55円より長期弱気中だったが、先月2月足に長期買いシグナルが139.63にて点灯し強気転換した。実に65円92銭という記録的な長期ショート益を計上した。

中期週足も先週2月27日週に141.67買いストップにて強気転換した。こちらは1月9日週の高値141.59円を上抜けた後、ドル円のように一時急騰する可能性が高い。周期的上昇余地はあまり残しておらず、目先の高値は148円程度ではないかと推定する。

今週の売りストップは130.16。(買いストップは149.39)

(下図ポンド円週足売買シグナル:)



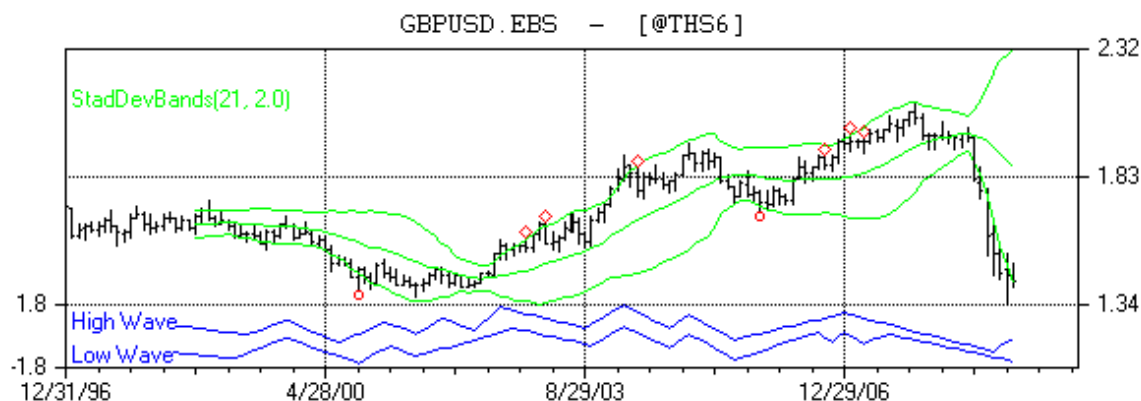
(下図ポンド円日足売買シグナル:)



ポンド米ドル: 1.4315 (1.4433) 先週末 NY 為替市場終値

ポンド米ドル: 長期弱気中、中期弱気中。

(下図ポンドドル長期月足売買シグナル:)

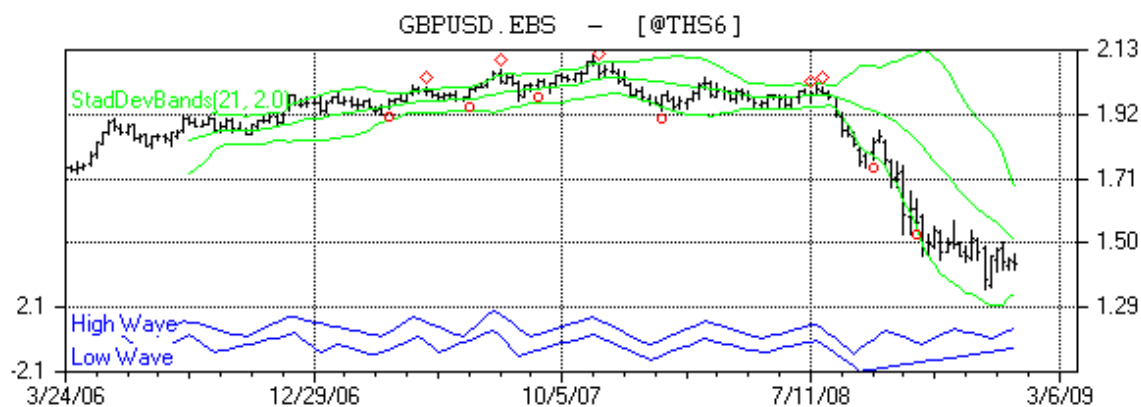


月足は長期弱気中(上図)。中期週足(下図)は1月23日週1.4278より弱気中。週週初に絶好のチャートポイントから反転上昇するかに見えたケーブルは、その後あっけ無く反落し、短期横ばいに転じた。ドル以外の英語御三家のうちカナダと豪ドルには対ドル長期買いシグナルが点灯したが、ポンドには点灯しなかった。調整じり安継続中。調整周期に昨年11月頃から入っているのだが、本格的な買戻しはまだ一度も発生していない。下落のモメンタムは減少中。ボラティリティーも減少中。多くの兆候が次はブレークアウトである事を示唆する。前後関係から上方ブレークになりやすい。

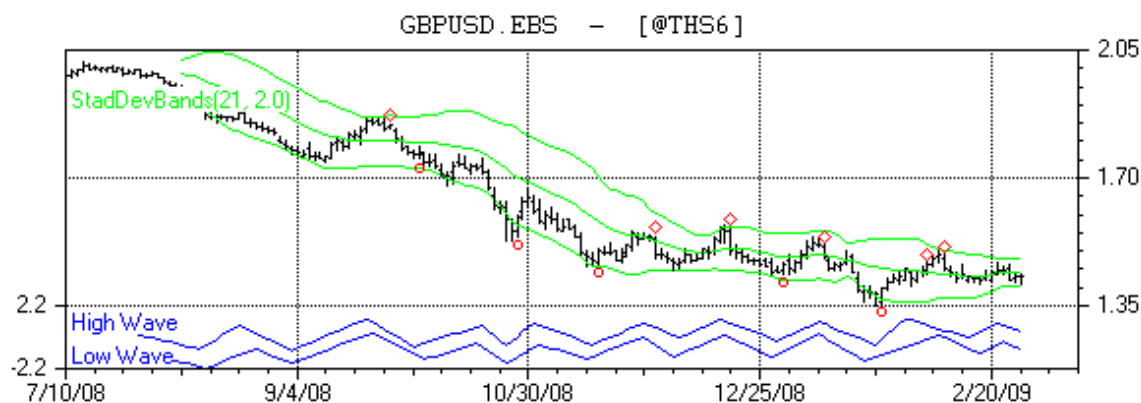
今週の買いストップは1.4680。(売りストップは1.3950)

標準予想レンジは 1.3809 ~ 1.4675
陽線予想レンジは 1.4138 ~ 1.5004
陰線予想レンジは 1.3626 ~ 1.4492。

(下図ポンドドル中期週足売買シグナル:)



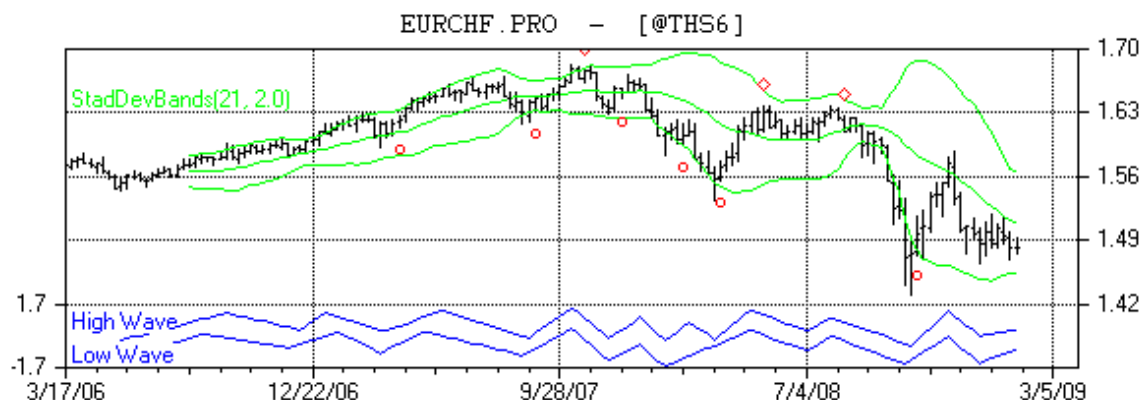
(下図ポンドドル短期日足売買シグナル:)



ユーロスイス: 1.4825 (1.4826) 先週末 NY 為替市場終値

ユーロスイス予想: 中期弱気中。

(下図ユーロスイス中期週足売買シグナル:)

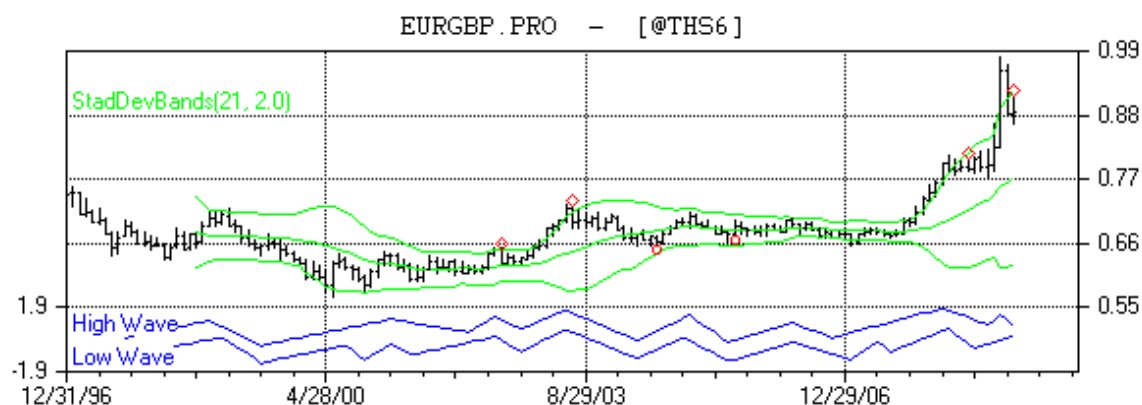


ユーロスイス 2 月足は孕み足で終了。先週も孕み足で終了した(上図)。ユーロスイスは市場のボラティリティーを最も正確に反映する指数と見做しているが、先週は円以外のボラティリティーは事実沈静化した。通貨市場は基本的に横ばい乱高下との予想であるが、レンジが縮小した事で、ブレイクアウトの可能性は、より高まったと言える。

ユーロポンド: 0.8851 (0.8883) 先週末 NY 為替市場終値

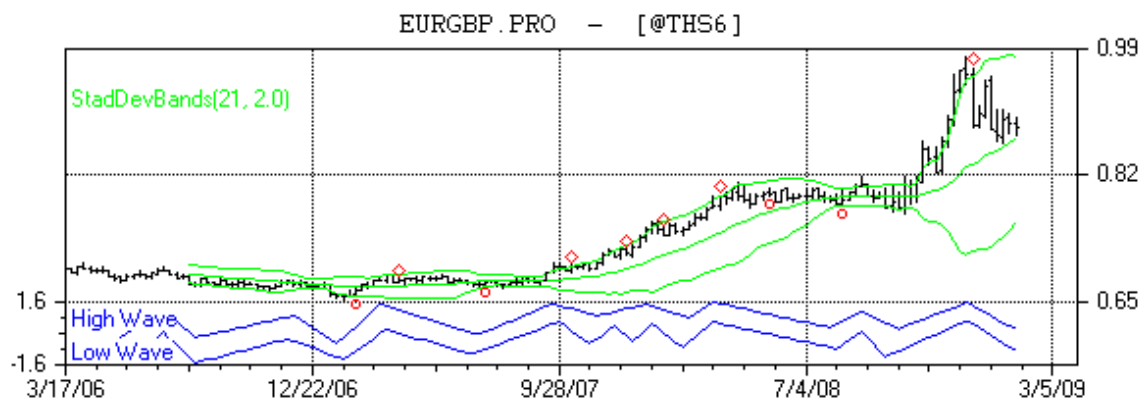
ユーロポンド: 長期弱気転換、中期弱気中。

(下図ユーロポンド長期月足売買シグナル:)



ユーロポンドは先週も狭いレンジで孕み足気味の十字足にて終了した(下図)。また月足は十字足にて終了した(上図)。月足には売りシグナルが点灯した。長期売りシグナルはあまり強い意味がなく、最高値更新はこの先半年間は無いと言うメッセージだろう。中期的には下値は固まり、乱高下横ばいが続くとの見通しである。システムチックな超短期逆張りには最も適した市場だとの認識を強めつつある。

(下図ユーロポンド中期週足売買シグナル:)



豪ドル円: 62.30 (60.23) 先週末 NY 為替市場終値

豪ドル円: 長期強気転換、中期強気中。

(下図豪州ドル/円長期月足売買シグナル)



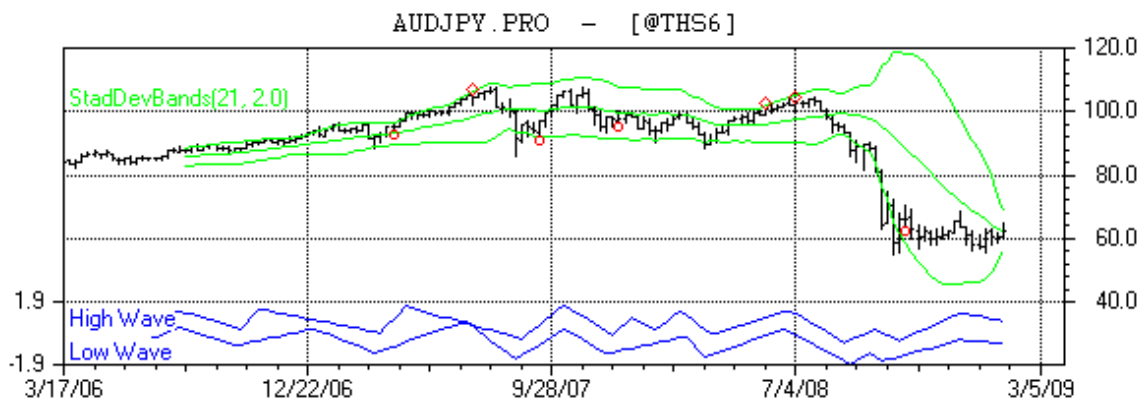
2007年7月101.46円長期売りシグナルより弱気中だったが2009年2月買いシグナル点灯して62.30にて長期強気転換。中期週足は2月6日週61.94より強気中。

豪ドル円2月足には月初より長期買いシグナルが一年半ぶりに点灯。長期強気転換した。39円16銭の記録的長期ショート益を計上した。今後の強気局面であるが、恐らく本格化は無く調整色の強い市況となろう。中期的な高値目標は70円程度。その後は70円の攻防を巡ってどのように展開するかで決まってくる。長期的な高値ポテンシャルは不透明ながらも、80円前後になるのではないかと推測。

類似相関する長期買いシグナルが豪ドル米ドルにも点灯した。ドル円にも長期買いシグナルが点灯しており豪ドル円の買いシグナルは完璧に相関している。

今週の売りストップは58.69。(買いストップは66.03)

(下図豪州ドル/円中期週足売買シグナル:)



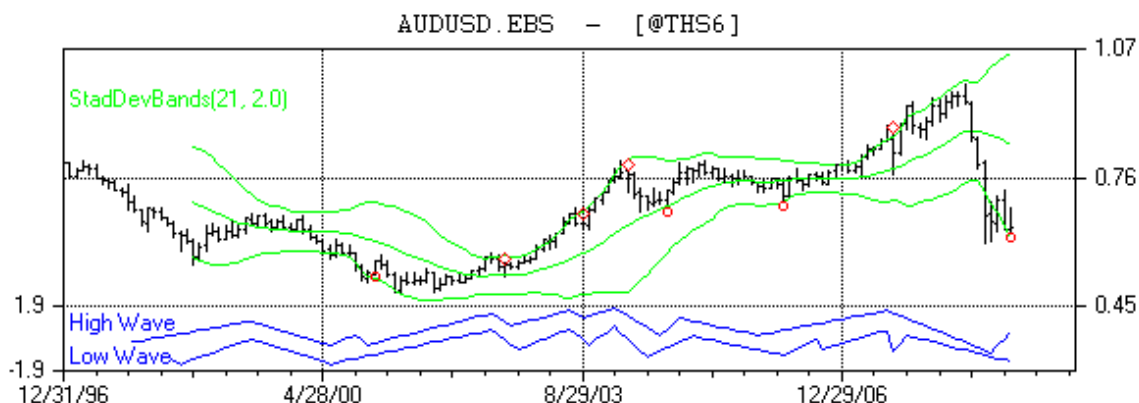
(下図豪州ドル/円短期日足売買シグナル:)



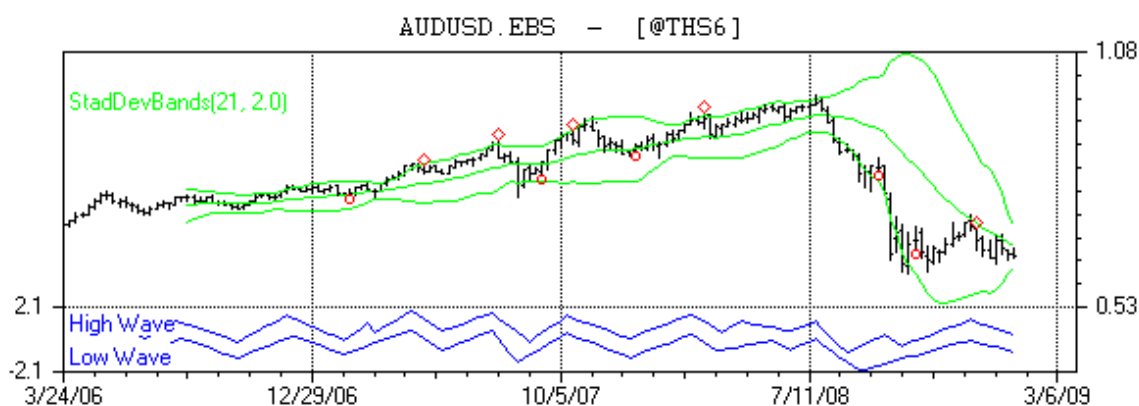
豪ドル/米ドル: 0.6385 (0.6452) 先週末 NY 為替市場終値

豪ドル/米ドル予想: 長期強気転換。中期強気中。

(下図豪ドル米ドル長期月足売買シグナル:)



(下図豪ドル米ドル中期週足売買シグナル:)



豪ドル米ドルは2月足に長期買いシグナルが点灯して長期強気転換した。週足は強気中で2週間連続の極小足。ブレークアウト間近い。これは恐らく急変前夜の兆候ではないかと推測。短期日足には売りシグナルが点灯。次のブレーク方向はこれだけの情報では下方と言うことになる。

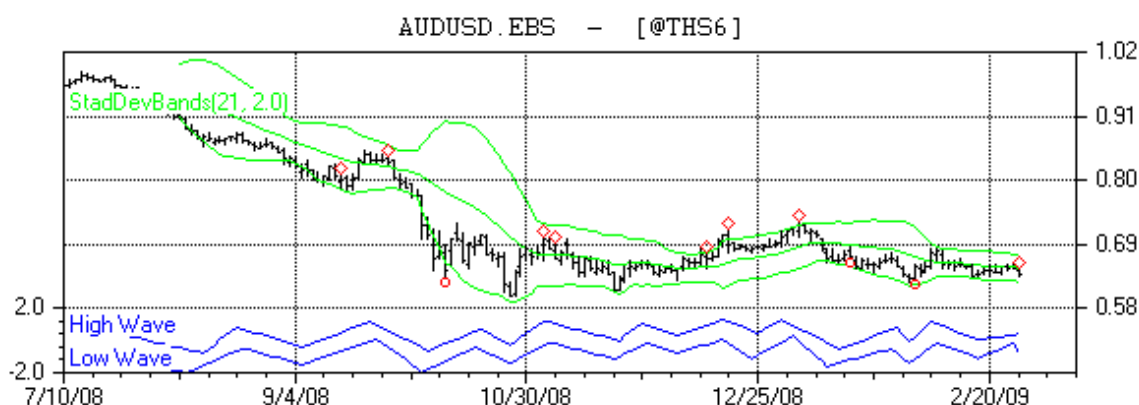
今週の売りストップは0.6240。(買いストップは0.6529)

標準予想レンジは0.6148~0.6631。

陽線予想レンジは0.6276~0.6759。

陰線予想レンジは0.6011~0.6494。

(下図豪ドル米ドル短期日足売買シグナル:)



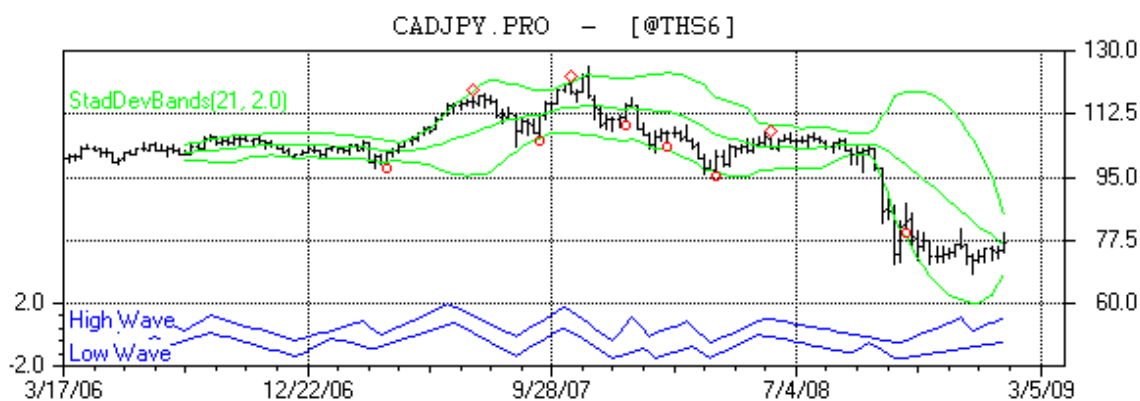
カナダ円: 76.46 (74.53) 先週末 NY 為替市場終値

カナダ円: 長期強気転換。中期強気転換。

(下図カナダ円長期月足売買シグナル)



(下図カナダ円中期週足売買シグナル)

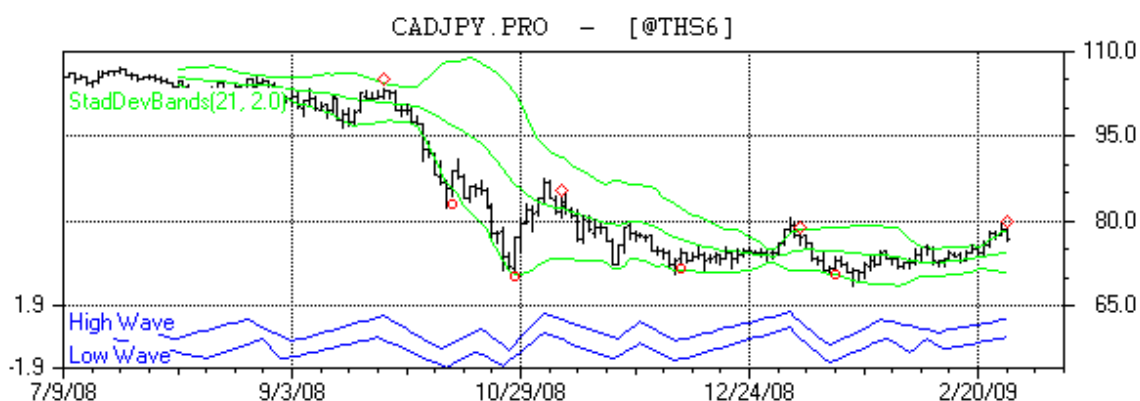


2008年8月102.60より長期弱気中だったが、2009年2月75.33円にて買いシグナル点灯し強気転換。中期は1月16日週71.35より弱気中だったが、先週2月27日週に76.88買いストップにて強気転換した。

カナダ円2月足にも長期買いシグナルが点灯。27円27銭の長期ショート益を計上。中長期の上昇ポテンシャルは計測し難いが、中期的には83円程度が高値目標と推定。

今週の売りストップは72.65。(買いストップは80.56)

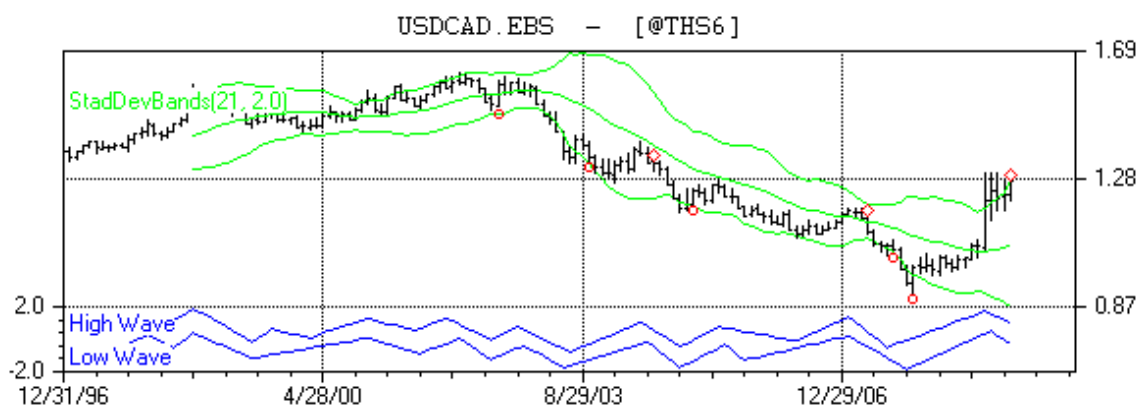
(下図カナダ円短期日足売買シグナル)



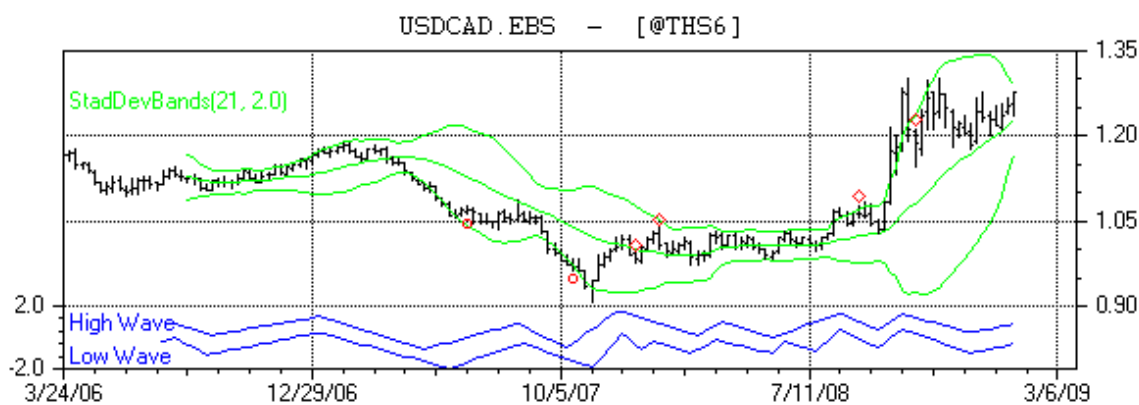
米ドルカナダドル: 1.2762 (1.2525) 先週末 NY 為替市場終値

米ドルカナダドル: 長期売りシグナル点灯して長期弱気転換。中期強気中。

(下図米ドルカナダドル長期月足売買シグナル)



(下図米ドルカナダドル中期週足売買シグナル:)



ドルカナダ 2 月足には 4 ヶ月の長期大乱高下を経て、長期売りシグナルが点灯した。今後は長期的上げ止まり、長期乱高下横ばいと言うことだろう。ボラティリティーは下がり沈静化し、レンジは細くなるとの見通しである。

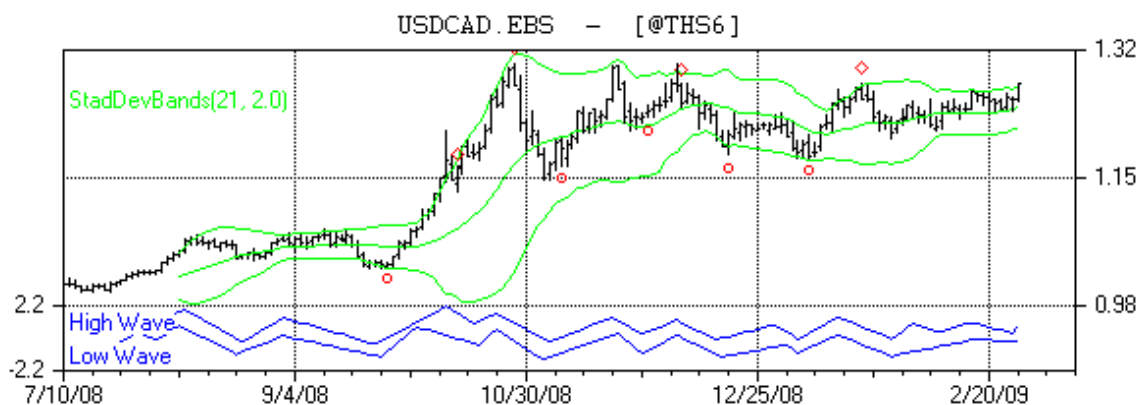
今週の売りストップは 1.2329。(買いストップは 1.3195)

標準予想レンジは 1.2447 ~ 1.3100。

陽線予想レンジは 1.2630 ~ 1.3283。

陰線予想レンジは 1.2241 ~ 1.2894。

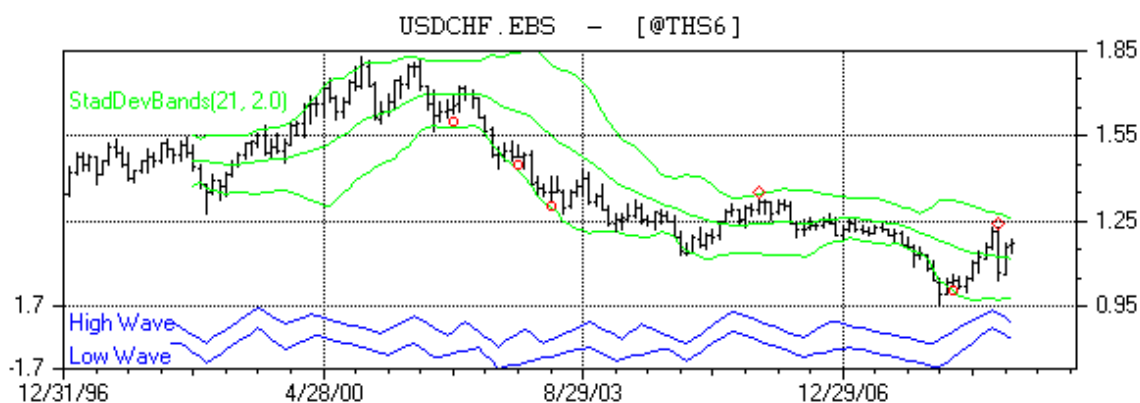
(下図米ドルカナダドル短期日足売買シグナル:)



ドルスイス: 1.1703 (1.1562) 先週末 NY 為替市場終値

ドルスイス: 長期弱気中。中期強気中。

(下図ドルスイス長期月足売買シグナル:)



ドルスイスは先週上昇した。結局直近の週足レンジ内を乱高下するに留まっており、新展開は無かった。日足の観察では2月20日の大幅下落後、ジリ高で買い戻されているが、次は又急落だろう。急落後は直ちにジリ高買戻しとなるので、週足はレンジ乱高下するわけである。

今週の売りストップは1.1429。(買いストップは1.1977)

標準予想レンジは1.1435~1.1892。

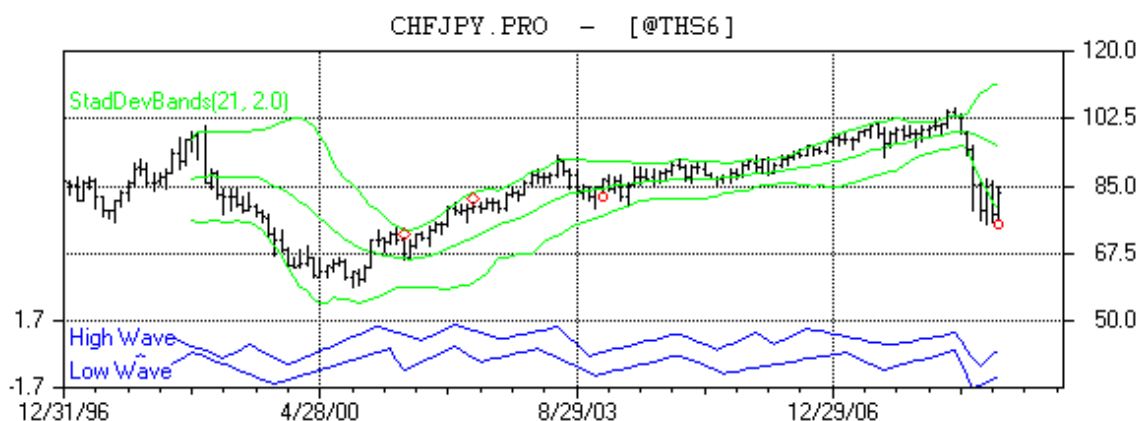
陽線予想レンジは1.1620~1.2077。

陰線予想レンジは1.1329~1.1786。

スイス円: 83.40 (80.80) 先週末 NY 為替市場終値

スイス円予想: 長期強気転換・中期強気転換。

(下図スイス円長期月足売買シグナル:)



スイス円は2008年8月99.91より長期弱気中だったが、2009年2月足83.40にて長期買いシグナル点灯し長期強気転換した。中期週足も1月9日週82.70より弱気中だったが、先週2月27日週83.44買いストップにて強気転換した。

先週のスイス円は続騰した。中長期強気に転換している。予想高値「少なくとも83円程度」は達成した。この先長期的な反発力は推測しがたいが、中期的に87円到達する可能性が高い。

外国為替予想・分析テクニヘッジ・レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものです。売買の最終決定は、読者ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、テクニヘッジ・レポートのいかなる部分も一切の権利は TANAKA CRM社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で引用、複製または転送などを行うことを法律にて禁じられています。

Tanaka CRM,v.o.f., The Netherlands
Currency Risk Management